石濤『画語録』における「我の芸術」に学ぶ―現代の教育改革、美術教育に示唆すること―

蝦名敦子

石濤『画語録』における「我の芸術」の視点から現代の教育改革や、美術教育に示唆するところを究明したものである。年中行事と化した感がある教育改革や、その枠組みの中で論じられる美術教育は、時代的要請に応えたものである。しかし本論は、それらに左右されない不易な事柄、すなわち教育者としての自我の確立、美術教育者としての個性的な「我」の質と力量が、本質的なものとして常に問われていることを指摘した。